

平成24年1月19日

新宿区長 へ

法人名 特定非営利活動法人
 東京都中途失聴・難聴者協会
 所在地 京都新宿区新宿 2-15-25-201
 (フリガナ) タカオカタダシ
 代表者氏名 理事長 高岡 正

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	字幕作成入門講座
実施日時又は期間	平成23年10月29日（土）～平成23年11月19日（土） 各土曜日 午後1時30分～4時30分 全4回
対象者の範囲及び人数	区内在住、在勤でパソコンの簡単な操作、入力ができる方。字幕に興味がある方。難聴者も含む。（申込者10名 受講者9名）
事業内容	①聴覚障害という障害を知っていますか（聴覚障害理解・字幕作成ソフトの使い方）②ソフトの使い方2 ③協力して字幕をつくらう ④作った字幕を上映・交流会
具体的な活動状況	講座：四谷地域センターを会場に実施。聴覚障害への理解、聴覚障害者・聞こえにくい方とのコミュニケーション上の配慮、街のなかの文字情報、映画やテレビの字幕等について学習。IPTalk というソフトをつかって字幕づくりの方法を学習。テープおこし、字幕作成、投影までを行った。難聴者に助手を担当してもらい、字幕表出のタイミングや見やすさについての評価をしてもらった。最後の会では共に生きる社会のために必要なこと、自分たちにできることなどを話し合った。
事業の成果	聞こえない方に文字情報が必要なことを理解していただいた。また、自分たちにもできることがあるのではと、気づいていただいた。 成果を発表する場として新宿コズミックセンターと交渉し、3月20日、字幕付きプラネタリウム実施が決定した。この講座の受講者にも、字幕づくりに関わっていただくことになり、サークルを立ち上げることになった。学んだことを他の区民に伝える役割も各自が担ってくださることになった。新宿区未来創造財団も、区民が事業に関わることを評価し協力してくれている。

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			103,928 円
	参加費・資料代等			円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		200,000 円
	計			303,928 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	7,240 円	会場使用料（講座 1200×3回・1600×1回 会議 2000×1回） コピー代（40）	
	宣伝費	10,614 円	チラシ用紙代（4,314）インク代（6,300）	
	リース費	円		
	消耗品費	16,624 円	プリンタカラーインク（4,980）情報保障用ロール・ペン（3,068）事務用品（3,923）宛名ラベル（4,653）	
	謝礼	87,000 円	講座謝金（全要研 40,000/内訳：講師 8,000×3回・助手 2,000×2人×4回）ボランティアスタッフ謝礼（講座 3,000×2人×4回・会議 3,000×5人・8,000×1人〔講師〕）	
	人件費	53,000 円	職員人件費（別紙）役員講師謝礼（10月26日開催分、@1,000×3H×1回）	
	材料費	2,180 円	LANケーブル（2,180）	
	交通費	30,000 円	スタッフ・職員交通費（500×5回×12人）	
	その他諸経費	97,270 円	要約筆記派遣費 86,400（21,600×4回）運搬費（5,950） 講座資料作成用紙（920）通信費（郵送費 4,000）	
助成対象事業費（小計）		303,928 円		
余剰金		円		
助成対象外事業費		円		
事業総額			303,928	円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	聴覚障害、聴覚障害者理解につながった。文字情報の必要性を、実習や難聴者との交流を通じて知ってもらうことができた。受講者が区内で字幕のサークルを立ちあげ、3月にコズミックセンターで字幕付けに挑戦する。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	新宿コズミックセンターでの字幕付きプラネタリウムへ、講座を修了した区民が関わることとなった。人数は少ないが、今後さらに地域に、文字情報が必要な人がいることを広めてくれることを期待している。
費用対効果は適正であったか。	難聴者が参加する場面では必ず要約筆記が必要であり、今回は事業費の28.8%となった。難聴者が参加する限り減らせない経費である。16名の参加を見込んでいたが受講者が集まらず、費用対効果は高くなかった。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	文字情報を必要などところにつけることで、誰にでも住みやすい町、社会になるが、費用的な面でハードルがある。ボランティア活動では啓発はできても継続的事業での実施には限界がある。講座なので、受講料をとるなどは考えられる。
理解者や支援者が広がったか。	人数的には少なかったが、聞こえない方への理解は少し広がった。
事務局の執行体制は十分だったか。	協力して執行した。時間、人の足りないところはボランティアの協力を得た。 講座当日は、受講者の協力もあった。
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。	この事業のための自主財源確保への取り組みには至らなかった。今後の課題として、講師、スタッフとで検討する予定である。
その他	助成金事業として認められ、会場の確保が円滑にできてよかった。区報への掲載で問合せがあり区報がよく読まれていることがわかった。区内情報誌からのインタビューも受け掲載していただいたが、来られた方が以前より聞こえに対する理解を深めておられたことがみえた。

* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
* 参加者の意見なども報告してください。

4 活動の成果

<添付資料>

- ・ チラシ
- ・ 配付資料
- ・ 写真
- ・ 受講者感想
- ・ 領収書写し（額面 10,000 円以上のもの）
- ・ 職員人件費内訳